

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和4年度河川研究会報告現場研修 (CPD番号4-5)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会報告
日時	令和4年10月7日(金) 10:30 ~ 15:00
場所	(1) 西和賀町、(2) 北上市
参加人数等	会員: 30人 説明: 岩手県北上土木センター職員

活動内容

1 事業概要 (1) 国道107号大石地区災害復旧事業に関すること: 目的: 地滑りによる通行止め解消: 復旧延長L=2447.3m 事業費約130億円 ア) 仮設工 押さえ盛土V=約14万m<sup>3</sup>、仮橋L=476.2m、道路L=364.5m イ) 恒久対策 トンネル工L=1470m、橋梁工N=1橋 事業期間: 令和3年度~令和8年度 (2) 入畑ダム 堆砂対策) 令和3年度末で計画堆砂量154万m<sup>3</sup>に対し147.3万m<sup>3</sup>と98% 堆砂対策喫緊の課題、現在対策工検討中、事業化に向け県単費で調査計画中。

2 現場研修 ※新型コロナウイルス感染症対策を講じ研修を行いました。主な質疑応答を掲載。

(1) 国道107号大石地区災害復旧 ①地滑り現場) ・地滑りの範囲・押さえ盛り土の安全率は? →仮設1.05、本設1.2 ・現在の動きは? →押さえ盛土と横ボーリングの排水効果で落ち着いている。 ・地滑りを把握するためのボーリング調査は? →地滑り面まで。 ・地滑りの誘因は? →降雪が比較的多かったこと+3月の降雨による融雪=地下水による滑り発生+直前の地震発生 と複合的  
②地滑り対岸+仮橋現場) ・杭打ち工法(ガンパイル工法、最大杭長60m) ・仮橋の架設費用? →約13億円 ☆今年の積雪期前までに仮橋の供用を予定していること、令和8年度までの完成に向け着実に進捗していることを実感しました。

(1) 国道107号大石①地滑り現場: 西和賀町)



②地滑り対岸+仮橋現場: 西和賀町)



(2) 県営入畑ダム堆砂対策: ・堆砂量の参考とした湯田ダムに近い地質、地形、山岳状況なのに、なぜ計画の3倍もの堆砂? →山の管理を含めた微妙な地形地質状況の違い、湯田ダムは上流に貯砂ダムがあること。地球温暖化。 ・堆砂対策工法は? ダムの嵩上げなど? →現在、検討中 ・公募型土砂撤去はどの程度? →今年度は約5000m<sup>3</sup> ・どのような会社が土砂撤去しているのか? →砂利会社。建設会社である。 ・毎年どの程度、土砂が堆積するの? →過去31年の平均で約45000m<sup>3</sup>=堆砂は促進する! ☆堆砂対策は今後検討すること。喫緊の課題であることを実感しました。

(2) 県営入畑ダム: 北上市)

